夕刊 磐城新聞
三月十四日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢(郵稅拾五錢)
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 特別欄一行金九拾錢(五號十二字詰一行 場所指定一行一回增)
編輯印刷兼發行人 柏木 磐城國石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合名會社 登錄交換略號(タイライワキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番

(日曜祭日翌日休刊)

『眞道』短評

笠間徹

短歌雜誌や文藝誌等の娛樂雜誌は好く現れたり消えたりしてゐる樣であるが、どういふわけか指導的研究發表機關ともなり鋭敏に與論を反映する如き新鮮で且つ實踐的雜誌は僕の知る限りでは出來た事を聞かぬ、尤も之は少し註文が過ぎるかも知れ無いが、一つ位あつても地方の恥には成らぬだらう、といふ樣な氣持で新雜誌の出現を潜在的に待望してあつた時、何の豫告も無く『眞道』が生れた

この冊子はキリスト教の傳導を目的とする僅か二十頁のパンフレツトで僕の求めて居たものとは異ふが、從來の手慰的娛樂雜誌と異り宇宙の眞理を探究し、以て精神生活に資せんとする趣旨を以て發刊せられた、故に實質上前者とは大いに其の存在價値を異にする、斯の意味に於いて僭越ながら短評を試みて見よう

昨年の夏だつたか今張り之に類する『愛鄕』といふ雜誌が生れ弐號までは出たが後は廢刊になつてしまつたらしい、『愛鄕』の發刊者は社會的位置も經濟的猶豫も亦地方名士のバツクも無い一女姓で、其の資本は唯燃ゆるが如き情熱に動くペンだけであつた

併し社會は人格の未知數な而も若い女姓の主宰する個人的な雜誌—內容が如何に充實してゐやうとも—を受け入れるに餘りに冷淡であつた

これが『愛鄕』廢刊の一つの大きな原因なりし事を推察するに難くは無いと思ふ それに引かえ『眞道』の發刊は地方的にも相當知られてゐる中村月城氏である、目次で見られる如く、高久、萩原、諸橋、門傳氏等、堂々の陣を張つて居るのを見ても其の社會的バツクの大なる事が分る、之だけで此の雜誌の永續性の一端が保障せられてゐる、だが永續性の第一條件は其の雜誌に盛られた內容が求めんとする讀者層に合致するか否かにある (未完)

社會の今日

3月15日

△和氣淸麿に正一位を贈る(嘉永三)△一向宗を眞宗と稱す(明治五)△紡績聯合會は綿糸の規格統一を實施す(昭和八)

○

泡を吐く生簀の魚や水溫む 翠影

舞姬のかりね姿ぞうつくしき伏見をくだる春のかはふね 與謝野晶子

植物の意慾

武藤彰男

○その季節季節に咲いて來た溫室の花らだつた 街角の霰に買はれ度い媚が凍つてしまふ

○みんなみんな花をつけようとする植物の、意慾に季節は未だ寒い 福田廣宣

○淡く私に銹ついた長崎、いつもの記憶學帽にある 古市詮

○ぐつと飲んで吐き出す歌ら、其情景を回想する生活へ送られる

家庭平和に就て

古河炭鑛勞働係主任 前松佐嘉

四

故に處世上最も必要な事は何か腹立たしい事が起つた場合、相手を憎み恨みなどする前に先づ自らに誤解がないかと自己自身をよく反省する事であります。而し誤解でないと判つたら今度は相手の個性境遇、靜かに考へて見る事であります。換言すれば相手の立場に代つて事件を判斷するのであります、さうすると前にも申したやうに事件そのものは眞實惡いことであつても、相手を憎む心は起らないで寧ろ同情の念に泣きたくなるのであります、でありますから此の二つの心得を絶えず念頭に置いて、その上で人に對する場合は大概の事件は善意に解する事が出來るばかりでなく憎むべき人物も亡くなるのであります。併し茲に一つ厄介な問題は相手を理解すると云ふことが口には言ひ易くても事實は行ひがたいと云ふ點であります、誰でも他人の事になると『君少し相手を理解してやれ』とよく言ひますが、自分の場合は却々これが出來難いのであります

それならば此の理解といふ事の妨げとなるものは何物であるかと申しますと自らの思慮が淺いと云ふ爲もありませうし、また個性の相違といふ爲もありませう、或はまた年齡の相違する爲もありませうが、然し根本の妨げとなつてゐるものは自我といふ觀念であると思ひます、相手への理解は自我を亡くした時に始めて徹底するもので我と非我といふ牆壁のある間は本當に相手を理解する事は出來ません、故に相手を理解せんとするに當つて最も必要な條件は自我を亡くする事であります。換言すれば相手に自我を沒入して自他一如の境地から判斷するのであります、勿論自他一如といふやうな境地は全分的には不可能の事でありますけれども少くも、それに近い境地に到つて相手を觀る必要があるのであります。古人の歌に『慈悲の眼に憎しと思ふものはなし、罪ある身こそなほ可愛ゆけれ』とあるは自他の垣を撤つた者の同情心であります。神でない人間に於ては自他の垣を全くとるは不可能でありますが相手に對する理解と同情とがあれば殆んどそれに近い程度の境地には到れるものであります

講談 浪人長屋

(37) 日岐武志作 月草道子畫

朝霧

靜香は、たうとう一晩中まんじりともしなかつた

—明日の三つ目が、どうぞ鐵彌さまであるように……

昨夜、靜香は寢るときに幾度もこゝろに念じて床に入つたがさて眠らうとしても眼がさえてくるばかりだつた

いとしい鐵彌の顏が、あらはれたり、ふッと消えたりした。三人目の男の顏がどうしても鐵彌の顏には見えなかつた。いつか宿外れでたわむれられたことのある、在方のいやな若者の顏だつたりした。ぐるぐるぐると、めまひがするやうにいろいろなまぼろしが浮んだり消えたりして、たうとう七日目の朝になつてゐた

外は、まだ暗いらしい

—いつもより少し早いが起きてしまはう、ほんとうに今朝こそ七日目の朝だもの……

急に、うれしい氣が胸にあふれた。靜香が、そッと起き上る物音に少し離れて寢たゐた老父孫兵衞は床の中から

『まだ早い』

と、唖れた聲でいつた

『でも、さつき、寅刻の鐘が鳴りましたもの』

『さうか、ちや、ご苦勞だが、焚きつけでもらはうか!』

と寢返りしながら

『わしも、すぐ起きる』

『お父ッさんは、まだゆつくりしておくれ』

靜香は夜具を片付けると暗い臺所の方へ行つて爐へ火を焚きつけた。そしてその火を圍爐裏へもうつした。ぴちぴちと、かはいた薪はたのしげな音をたてゝぱつと燃ゐはじめた。靜香の桃割れの影が、ゆらゆらと後ろへ大きく描きだされた

ほのぼのと、やがて明けそめたひえびえとした、秋のあしたである。親一人娘一人は、まづしいがむつまじい朝飯の膳に、向ひあつてゐた

娘靜香の生長を只一つの樂しみに孫兵衞は白頭の、もういい齡だつた

『今日はまた、たそくなるかも知れんが、さみしかつたら、太七どんでも呼んで來て話相手になつてもらうがいゝ』

孫兵衞は食事がすむと土間で草鞋を履きながらいつた

『はい』

靜香は手早くつくつた握り飯を布呂敷に包んだ

『なるたけ、早く歸つて來ておくれ』

『おうよしよし』

鎌を腰に落とした孫兵衞の後姿が表へ出ると、すぐ濃い朝霧の中に消えていつた。靜香は後片付けもそこそこに表へとび出した、食事をしながら聞いた鐘はたしか明六つの鐘である、靜香はわけもなく胸をおどらしてゐた

田圃路を、半丁ほど小走りに歩むと、もうそこは宿外れの街道である

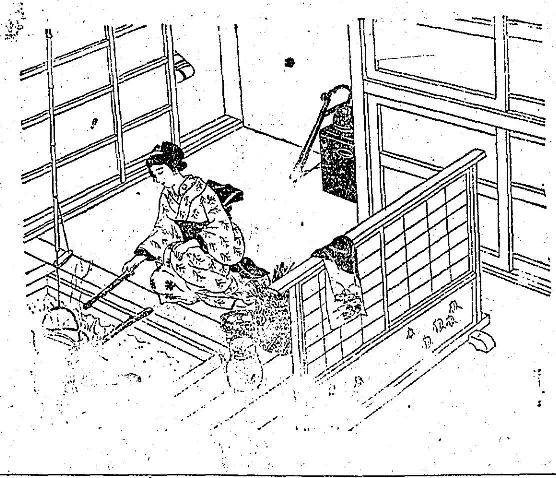
濃い朝霧が、もうもうとこめてゐて半丁程先は、見えぬ位だつた

—今頃鐵彌さまは朝稽古をしておゐでだらうに、こんな所をお通りになる筈はない……

さう思ふと、靜香は龍雲齊にだまされたやうな、ばからしさを感じた。いやらしい男を見て氣持ちを惡くするよりも、いつそ歸つてしまはうかと思つた。が七日の間、あれほど待ちあぐんだ今朝である。やつぱり氣にかゝつて、おそろしい運命を待つやうな思ひに胸ぞをどらせ、そこにただずんだ

と、人影が黒く霧の中からあらはれて來た

靜香は胸をときめかせながらその方をじつと見守つた



廣告

見習生募集 十四才より十六才迄
高橋時計店 精幸堂號
(委細面談) 平町才槌小路 (キクチ自動車店向)

◉自信ある製品◉ ランドセル 總皮製 80錢より 4圓50錢まで
新學期の洋品は 中野洋品店 平二 電53

吉田眼科病院

ランドセル 手提カバン
總皮ランドセル大型 ¥ .75
極 大型 ¥ .90
牛皮特選ランドセル ¥ 3.00
ツルヤ 平四 電140
・小學生用運動靴・

眼科專門 賀澤眼科 平町南町 電話七一二番
診療時間 毎日 自午前八時 午後九時迄

魂の這入つた 自轉車と リヤカー
フタバ式リヤカー發賣元 フタバ商會 平。新川町。月見橋際

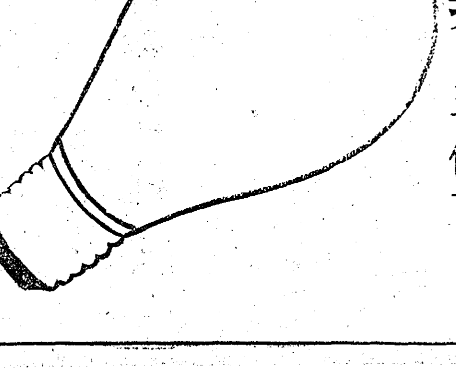
◎日本石油株式會社特約店 ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話五五番)
支店所在地 茨城縣土浦町田宿 (電話六五三 八二四) 常磐線關本驛前 (電話平潟五四) 常磐線四倉驛前 (電話四八)
◇海上給油及油槽所 久慈濱、大津、平潟
營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡摩、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

感じの良い! 客に親切な……
藥種賣藥、工業藥品 衞生材料、各種染料 化粧品、其他
阿部藥舗 平・田町 (松月堂向)

夜間診療
胃腸 性病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院 (平町南町電一〇七番)

店員徒弟 募集廣告
◇小店員 五名
資格 (年齡—拾三四才ヨリ拾六才位迄 學歷—尋常科卒業又は以上の事)
優待方法 (家族制度ノ外特別優待方法アリ)
◇徒弟 拾名
◎家具職トシテ合理的製作方法ヲ望ム人
資格 (年齡—拾三四才ヨリ拾六才位迄 學歷—尋常科卒業又ハ以上ノ事)
修業後ノ收入 (一ヶ月金五拾圓以上百圓位)
◎御希望者ハ至急御面談又ハ御問合セヲ乞フ
和洋家具 製作販賣 設計請負
丸はん商店 營業所 平町三丁目 電話三五九番 製作所 平町新田前 電話一八二番

ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下ゲ
十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院 眼鏡科 電話十九番



新車御披露
三十四年式デラツクスセダン入車致しました。貸切の御用の節は是非御試乘を御願致します。
・最新型セダン揃ひました。
電話六四〇番 尼子タクシー

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町 (元眞木辯護士跡)
增田耳鼻咽喉科醫院 電話四八二番
(入院隨意)

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 ㊇ 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

内臟外科 一般外科 花柳病科 (入院隨意)
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院 電話三〇九

瀕死の實弟を救ふ爲 三百瓦の血液を提供
赤井の列車事故に骨肉美談

既報―昨十三日早朝赤井村古市鑛業所へ出勤の途中同村字瀧ノ澤地内踏切りで平發五時四十二分下り十三號列車に跳ね飛ばされ頭部、足部に瀕死の重傷を負つた同村大字西小川字坂下佐藤武夫(三〇)氏は遭難直後近隣の人達によつて平町田町安齋外科醫院に昇ぎ込まれ應急手當を受けたが何分腦の中樞を冒されたるやの疑あり、足部其他の手術に就ては心臓の關係等も大に考慮せねばならずその成り行きを懸念されたが急報に接し郡山から駈けつけた同人の實兄草野順平氏が骨肉の一大事捨て置けずとなし躊躇する處無く自己の血液三百瓦を輸血して貰つた結果幾分元氣を恢復し意識も漸く明瞭となり、頻りに足部の疼痛を訴へ始めたので腦に對する不安も薄らぎ目下細心に豫後を警戒中であると

因に遭難の現場は恰も前方の見通しのつかぬ崖際に在り平常危險な場所なるに加へ昨朝は朝靄が四邊一面を立ち罩めて展望自由ならず搗て同人は些か聽覺に欠陷あり平常は該列車の通過後出勤するを當日に限り早目に出かけ時速五十キロの急速度で同所を通過する右列車に觸れこの奇禍に遭つたものであると、尚ほ一部に覺悟の自殺なるやに傳へられ親戚一同少からず迷惑してゐると

都計準備進む
道路交通機關調査に
中潟縣土木技手來平

隣接部落を合併して一躍三萬三千八十二名の平大都市計劃は當局に於て着々準備を進めて居り近く任命される町長以下都計委員により本格的計劃を進められるがこれが下準備として縣土木課中潟道路技手は今十四日來平約一週間に亘つて測量及道路交通機關などを詳細に調査する事になつたと

巨大な記念碑に 汗の奉仕を傳ふ
入山で山神社境內に建立

入山炭鑛從業員の奉仕作業である台の山中腹の山祇神社々殿神苑造營工事は既報の如くその神苑幹線道路、神苑子種地模樣がね、社殿敷地、境內遊園地、矢場等々客臘來毎日曜の公休日を利用するだけの短日月に豫想外の完成を見たので同社ではこれら勞力奉仕の精神を後世に傳へ、又山祇神を祀る事によつて全山事故の皆無を祈る心から境內に之れが記念碑を建設すべく磐城訓盲院理事梅崎安由氏の筆により目下彫字を急いでゐるが碑面に一字二尺大の『記念碑』三文字を、裏面に左記由緒を刻したもので見上ぐる程巨大な仙臺産の自然石を使用した同碑は正に臺の山中腹の一偉觀たるべく來る新綠初夏の候に於て催さるる該碑完成第一次の山神祭典は例年以上の賑ひを呈するものと豫想さる

大山祇神は鑛山の守護神たり、吾社夙に高燥靜謐の臺の山中腹に靈域を相し社殿を營み以て崇敬の誠を輸せり、然るに奉祀歲久しく社殿漸く朽廢せんとするに先ち今次改築の工を起し併せて神苑の造營を計る、吾等二千有餘の氏子は敬虔と感激とを以て協心戮力道を拓き堤を設け泉石の布置に樹竹の植栽に只管奉仕維れ努め今や其の竣功を見たり

殿棟高く聳えて崇嚴極り罔く神苑幽邃にして四季の風韻豐なる處瑞雲靉靆として社頭に搖曳す、氏子等虔んで社運の彌榮を祈願し、玆に記念碑を建て要を刻す、奉仕者の芳名は錄して石匣に然め永く後世に遺す

起工 昭和八年十二月
竣功 昭和九年四月
社殿建坪 十三坪六合
神苑面積 一萬二千坪
奉仕者延人員

第三職員機關誌。。。。。 平第三小學校では職員の研究事項を輯錄し相互の研究將來の參考に資する爲研究錄協進を發刊した

磐女の志望者は 約四割が不合格
採用、應募大差なく 案外樂らしい磐中、平商

磐中、高女の願書受付締切りは愈々明十五日に迫つたが今十四日正午の現在は

△磐中―募集約二百五十名に對し二百七十名

△磐女―二百名の處へ三百三十名

△二十四日締切りの平商―約百十名の處へ百七名

で最多の平各校の分が提出濟みとなつたので今後さしたる增加なかるべくこれによると磐中、平商は採用數と應募者に大差なく磐女は約四割の不合格を出すわけで依然最受驗難と觀られてゐる

鈴木五段來平 縣警察練習所柔道師範五段鈴木寛造氏は昨十三日來平今十四日迄平署で模範教授をなした

平驛を中心に 軍事輸送演習
第六課長渡邊大佐以下 參謀本部員廿名參加

陸軍參謀本部第六課長砲兵大佐渡邊右文氏外二十餘名の一行は來る二十五日午前九時三十三分著で平驛構內を視察軍事輸送に關する演習の後郡山方面に向ふと

一行二百餘名の 大視察團平入り
町當局其他歡迎準備中

既報―前橋實業視察團二百十名の一行は十九日午後三時着磐越線にて來平驛頭町有志及紅裙連の出迎ひを受け住吉屋本店(八十名)同支店(六十名)甲陽館(五十名)尼子亭(二十名)に分宿するが平町長、商工組合、藝妓組合、料理組合、指定旅館では午後七時より平館に於て歡迎會を催し藝妓の日滿親善おどり、平小唄、磐城小唄等の出し物で大に歡迎の意を表すると

養蠶協會總會
豫算と役員改選

郡養蠶技術員協會春季總會は此程平陽女學校樓上に開き九年度收支豫算、會則制定協議の後左の如く役員改選を行つた

會長―佐久間傳(平)副會長―乘本三男也(上小川)幹事―木田藤太郎(平)志賀傳造(錦)佐藤智行(澤渡)合津秀二(永戶)上遠野俊夫(上遠野)常任幹事―松崎重雄、取締役―縣代議員廣井將之(內郷)顧問―目黑誠之、酒井猶次山本薫

野球豪華版
十八校爭覇の 縣下大會迫る
早くもファンの血湧く

地方ファンの血を湧かす縣下中等學校体育大會野球試合は愈々來る七月廿三日より三日間場所は磐中と湯本、內郷、好間の三ケ所から二ケ所を選定、合計三ケ所で此種豪華版が華々しく開かれるが參加は常勝福中を筆頭に十八校であり盛況を豫想されて居る

墜落原因調査續行 二十二名の負傷者を出した磐炭綴坚坑の昇降機墜落原因に就き仙臺鑛山監督局山口技手は捲上機につき一部解体調査中だが當務者の平署錯覺なりとしたの調査に對し捲上機運轉手鈴木勝太郎(三七)の供述が一致せぬので同署では今十四日午後更に鈴木を召喚取調べをなした、

滿蒙建國資料展。。。。。 縣日滿親善協會、及縣教育會、海外協會主催の滿蒙士義民兒童作品建國資料展覽會は來月二十七日より三日間平町(大体第三小學校)で開くと

町稅整理公賣。。。。。 平町では年度變りを控えて今月下旬町稅滯納約二百件の再公賣を執行すると

在軍經理檢查。。。。。 平、江名、赤井、好間、大遠野、小田炭鑛分會の石城在郷軍人分會經理檢査は明後十六日午後一時から平役場會議室で師團三等主計正渡部乙彥氏出張の下に行はれる

平理髮組合幹部會。。。。。 來る十七日午前九時から平署會議室で開き五月福島で開催の總會、來月の東部會總會並採用試驗に關する件を協議する

神谷壯丁虎眼檢查。。。。。 來る十九日午前十時から村役場で執行する

遞信記念日をトし 平局勤續者表彰
戶石局長外廿名該當

遞信省では今年より每年四月二十日を遞信記念日として種々の催しをなす筈であるが平局でも卅年勤續の戶石局長以下二十餘名の表彰をなし、了つて運動競技會を催すべく計劃中であると

不心得な投書家へ
特に仙台テイ氏へ
磐新 ○ △ 生

中には隨分所謂自己陶醉に陷つてゐるものも少くないが文藝方面に於ける眞面目な作品の發表と、公私事に係る暗黑面の暴露と、新聞社への投書は大体この二つの範疇を出てゐない、而して玆には多くの關係がないので前者に就ては姑らく措き、後者に就て云ふならば其の投書が公私憤の何れに動機してゐるかは少くとも日常各方面から種々雜多な投書に接してゐる玄人として一目にして之を看取する事が出來るので狡猾なる投書者が如何に公憤を裝ひ其の美名の下に計劃したとて社會公共の爲に於てなされたものと、個人間の嫉妬排擠を目的としたるものとは其間截然たる區別がついてゐるから偶々私憤を洩らすに新聞紙を利用せんとする投書家が現れるにした處で新聞社から云ふと如何にも小兒瞞しな笑止千萬なものとしてより受取れない

一例を云ふと今朝『仙台にてT生』なる假面の下に寄せられた金融を目的とする某會社に對する投書の如きは

(前略)―五錢、十錢の金を日掛で集めてどうして五人も六人もの利益が生れますか、想像した丈けで分ります。平町戶數三千の內五百人が十錢日掛の口へ入つたとして每日入る金が五十圓として一ケ月千五百圓の金しか入らないではありませんか

それだのに六人か七人の人が給料とすれば大變なものではありませんか、たかゞ千五百圓で年十二割にしても一ヶ月百五十圓、まさかそんな莫大な利益もないでせう、もしもそんな利益が會社に入るとしたら、いんちきではありませんか(後略)

云々の如き當否の詮索は論外とするも、欄外に、

―至急調査をすべきでせう

御社が若し廣告でも取つて居つて摘發出來ないとすれば他の新聞に賴みます

等の文字を臆面も無く附記し、新聞社をしてどうしても何物かを報道せしむべく餘儀なからしめんとしたなどは其心事の陋劣醜穢まさに唾棄せざらんと欲するも能はざるものがある、所謂商賣響に出發してその餘波新聞社を迄冒瀆せんとした覆面の投書家果して何者ぞ誰か烏の雌雄を辨せんや、物云へば唇寒し秋の風!・である、新聞社に對して正しき認識を欠く一部不心得な投書家、殊に最近の『仙台にてT生』の色讀を望む

一味三十名の內 十二名が公判へ
軍雞賭博に峻嚴な態度

去る四、五の兩日湯本町大字湯本字笠井一九渡邊ステ方裏庭で大仕掛けの軍雞賭博をなし平署に檢擧された關係者三十名は過般送檢され清田檢事係取調べ中であつたが內十二名は公判十五名は略式、殘る三名は不起訴と決定、內八名の公判は昨十三日午後一時から平區で中島判事係り清田檢事關與で開廷され、檢事の求刑通り左の如き卽決を言渡された

懲役五ヶ月(賭博開帳)湯本町三函靑物商大友喜佐次(四六)懲役二月罰金廿圓(同幫助賭博)茨城縣東茨城郡上大野村雞仲商買中里新之助(五八)(同)同多賀郡松原町荒川屠肉行商韓昌榮(四〇)(同)湯本町三函荷馬車業遠藤唯一(三六)(同)上遠野村小淵農遠藤春喜(四七)(同)同上瀧雜貨商關口三郎(五八)懲役二ヶ月(賭博幇助)湯本町白田大工越智新一(四〇)(同)赤井村理髮業關谷甚藏(三六)

殘る左記四名は武田、松野尾、門傳、酒井、山野邊各辯護士立會の下に來る二十二日午後一時より公判開廷される

湯本町三函旅人宿島崎三五郎(五八)同土木請負業箱崎義一(四七)茨城縣久慈郡諸富野村雞肉商大高八百吉(五六)上遠野村原前農鈴木太平(四〇)

尙次の十五名は昨十三日夫々略式で處分された

(罰金廿圓)四倉町本町製餡業渡邊金太郎(四二)內郷村小島靑物行商高木粂次(五九)湯本町吹谷料理業長岡義心(四五)鹿島村走熊木炭燒業本多重太郎(三七)湯本町寶海魚行商靑柳鶴司(三五)同三函菓子商阿久津幸吉(四五)双葉郡浪江町下町吳服太物行商渡邊豐次郎(六)植田町金畑雞賣買業園谷惠(五二)鹿島村走熊金成四郎(三)茨城縣多賀郡平潟町東町雜穀商本田由(四二)上遠野村小淵農齋藤榮一(三〇)赤井村高萩魚行商安藤守(三五)(縣警察犯處罰令違反各科料十圓)好間村下好間木材商佐藤博作(四三)磐崎村白鳥土工高橋菊治(六〇)湯本町笠井味噌醬油行商渡邊與七郎(五七)

賭博。。。。。 內郷村大字綴字堀坂一寶炭業遠藤淵三郎(四八)大字町田炭鑛雜夫荒木粂治(五〇)湯本町大字湯本字三函無職堀內寅治(四五)字上町無職神長富治(四八)の四名が去る八日午後一時頃湯本町吹谷七〇白土みよし方で賭博を開帳した事件は明十五日平區で中島判事係り清田檢事關與で公判開かれる

投書歡迎 槍

郵便局へお尋ね。。。。。

◇親譲りの小金を預けてあるんだが自分は獨身、それに日中留守の勤め人であれば通帳盜難の不安彫しく從つて能率にも支障を來すやも知れぬ、薄給の自分は此の利息で補塡して居るのだから謂はば命の綱だ、妙策如何

◇これは自分の友人から聽いた話しだがその友である帝都に轉學の大學生が最近こんな妙策?を盛んに使用して居る、金が無くなると新聞を送る每帶封の裏に『金欠生』、カゼを引くと『風邪生』やれ何生、かに生大枚三錢、或は一錢五厘をも出さず僅か五厘で一擧兩得の要件は充分に達して居る何らお咎が無い處を見ると局でも默認して居るのか、それとも感付かぬのか、其點御指示を乞ふ

(不安生)

保護者會費の割引。。。。。

◇家計不如意な小學生の保護者會費は學校當局でもこれに同情して割引して居るのは結構だが、その實何ら困らない小供等が割引してもらつて得々として居るのは小癪にさわる、從つて無理算段しても每月初め完納する我々階級は馬鹿正直の樣だ、賢明な先生方よ!活眼を開いて充分その生活程度をお調査の程を、底には底があるものです

(立町七軒長屋生)

舊二月一日
木曜 乙酉 友引 破 斗宿
新三月十五日

諸判定總帶 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神讃館

▲一白の人 有利と思ひし事も埒開かず不快に閉ぢらる▲二黑の人 花もしぼみ實を結ばず萬事不滿足に終る凶日▲三碧の人 努力次第にて意外の幸福の湧き出づる吉日▲四綠の人 手落の無き樣心配りをすれば喜びを招入る▲五黃の人 平穩の中に不滿を免れず堅實に定業を守れ▲六白の人 はつらつたる意氣を以てすれば良果を摑み得る▲七赤の人 深き自信を胸に抱きて直進すれば望を遂ぐ▲八白の人 意氣盛なれど力足らず滿足するに至らぬ日▲九紫の人 花に嵐月にむらくも兎角思ふ儘にならぬ不安日

十五日
日出 五、五三 月出 前五、二八
日沒 一一、五四 月沒 後五、三五
滿潮 前五、四〇 後五、三五
干潮 前一一、二〇 後一一、四五

通學服と防水マント賣出し

お坊ちやんお孃ちやんの可愛らしい丈夫な通學服を豐富に取揃へて御座います。何卒御用命を………

男兒用
紺サージ金釦服………
黑小倉服………
同 (上ロ)………
女兒用
紺セルセーラー服……
紺サージ制服………
防水マント
片ゴム………
中ゴム………

ちかや洋服店 平三 電203

石炭 コークス 玉炭

平驛前 阿部石炭商店 電話三七番

生徒募集

◎ミシン裁縫、裁斷、教授

女性の一生を保護する趣味的職業として洋裁を知らねば恥の時代となりました

磐城女子洋裁專門學校

●本校獨特の實際に役立つ斬新裁斷法
●實力主義で氣安く習へる個人的教授
●ミシン使用無料・材料貸與

平町白銀町廿五番地
(詳細學則郵券二錢)

紅茶代用品

即席しるこ

何處の御家庭でも熱湯さへあれば卽席に出來ます尙一分間炊は一層風味良なります。在來の晒あんとは全々違ひ日向臭くありません。小豆の天賦の風味芳香と榮養分を完全保有されて有ます。

一袋正量三七五瓦入(約[illegible]人分)金三十錢
贈答品函入 金一圓

製造發賣元 日進堂 平町田町 電話一八六

新草餅を始めました。